

織笠地区できりせんしょ作り 山田ならではの味を満喫

(公財) 国際開発救援財団 (ファイダー) が主催する、町内各地区の魅力体験を通して交流を深めることを目的とした催しが、7月5日から始まりました。第1回となる織笠編は、同地の郷土菓子である「きりせんしょ」作り。織笠・白石地区の水車小屋に参加者15人が集まり、みつまたの会の湊聡子さんの手ほどきで作り方を学びました。試食タイムでは、参加者らはきりせんしょのほんのりとした甘味に舌鼓を打ちながら「家に帰ったら早速作ってみっぺし」と、顔をほころばせていました。



豊小児童が水生生物を調査 川の生き物から水質を知る

木漏れ日が差し込む豊間根川で7月10日、豊間根小学校(甲谷清隆校長、児童102人)の4年生17人が水生生物調査を行いました。これは、川の生き物を調べることで、川の水質を知ってもらおうと町内の小学校5校で行われたものです。川に入ると水の冷たさに驚く児童たちでしたが、すぐに慣れて元気に調査を開始。トビケラやヤゴなどさまざまな生物を捕まえました。捕まえた生物を観察した児童たちは「きれいな水にしかすまない生物でいっぱい」と話し、川の水質の良さを理解していました。



国体PR情報

開催まであと**428日**

大会に向け花いっぱい運動



7月21日、柳沢地区の国道45号線沿いにおいて「花いっぱい歓迎花壇推進事業」が行われました。これは、来年行われる希望郷いわて国体において、来町する選手団や関係者をいっぱいの花で迎えようと町内各地で実施されているもので、今回は日台きずな保育園(柏谷千代子園長、園児16人)の園児11人と親和会(山崎幸男理事長)が合同作業。参加した園児らは、花で「国体」の文字を形作るのに悪戦苦闘しながらも、一本一本丁寧に植えていました。

また炎天下の中、親和会の皆さんも花植えや歩道縁石の草刈り作業に従事。同会の山崎理事長は「町をきれいにし、震災で支援してくれた全国の方々を、恩返しの意味を込めて快く迎えたいと思います。今後も継続的に手入れをしていきます」と、国体成功に向け花いっぱい運動の重要性を話していました。





町のわだい

今月の題字 鈴木 伶菜さん（山田北小2年）



シーカヤック体験教室開催 穏やかな海と景色を楽しむ

7月12日、海の色をそのまま映したような晴天の下、山田湾を舞台にシーカヤック体験教室が開催されました。これは観光の目玉であるシーカヤックを体験してもらおうと町が主催したものです。会場となった浦の浜地区には町内外から21人が集まりました。パドルの使い方や乗り降りの仕方などの事前講習の後に一斉に船出。当日は波も少なく、参加者らはゆったりと景色を楽しみながら湾内をツーリングしました。体験を終えた参加者は「パドルをこぐたびに景色と海は表情を変え、楽しいひとときでした」と満面の笑みを浮かべていました。



復興拠点エリア内に公益施設着工 子どもたちの活動実を結ぶ

陸中山田駅前に建設される「(仮称) 山田町子ども交流センター」の起工式が6月28日、町中央コミュニティセンターで行われました。同センターは、山田町子どもまちづくりクラブのメンバーが企画・デザイン。子どもをはじめとする住民憩いの場として仕上げました。式には、同メンバーや支援者など約150人が参加。鍬入れや施設紹介のほか、山田南小虎舞が元気な舞いを披露しました。建設に際しては(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが施主となり、サントリーホールディングス㈱が建設費全額を支援。来年1月末の完成後、町に寄贈されます。

